

# 穂学

令和元年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 19]

令和元年12月24日(火)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

## 「亥年いとしから子年ねとしへ」

今年も残すところあとわずかとなりました。平成最後の年としてスタートし、広州日本人学校に赴任後の五月には令和元年を迎え、新鮮な気持ちと様々な経験をさせていただいた、まさに「猪突猛進」の例えどおり、変化の時代(年)を突っ走ったような気持ちでいます。保護者の皆様にとってはどんな年だったでしょうか。

広州に来て初めて行った動物園で、十二支の石像を見て驚いたことは、恥ずかしながら中国にも十二支があると知ったことと、最後の干支である「亥(いのしし)」が「豚」の意味ということでした。いろいろな文化や風習の相違を発見することは外国に住む楽しみの一つでもあります。沖縄から来た私にとって、「同じだあ」と感激したことの一つは「清明節」でした。沖縄では、家族や親戚がお墓に集まり、祖先を前においしいご馳走をいただきながら、近況を報告し合う清明節(おきなわでは「シーミー」と呼んでます)は、正月やお盆と同じくらい重要な行事でした。

もうすぐ新しい年を迎えますが、春節という中国文化を体感できることを楽しみにしています。実は、沖縄にも新正月(一月一日)ではなく旧正月(旧暦一月一日)を祝う地域が残っています。清明節や旧正月は中国から渡ってきた文化だとあらためて感じています。

さて、来年の干支「子ね」は十二支の第一番目にあたります。方角は北、時間では午前0時(子の刻)にあたります。

「ね」と聞いて思いつく漢字は他にどんな漢字おとがあるのでしょうか。「音」は、聞いて心地よい音や鳴き声ですが、違う音が重なり合って響き合うハーモニーのように、私たちも人それぞれの個性が響き合う関係をつくりたいですね。

また、「根」は物事が生じるよりどころとなる部分という意味があります。子どもたちの根っこの部分(生きる力=豊かな人間性、確かな学力、健康・体力)を保護者と共にたくましく育てていきたいと考えます。

「寝」はどうでしょう。もちろん眠ることですが、「寝る子は育つ」のとおり、子どもの成長にとって基本的な生活習慣の確立は最も重要と言えるでしょう。

最後に「嶺みね」が出てきます。山の嶺のことですが、目指すところ「目標」「志」に例えられます。新しい年を迎えるにあたり、一人一人が自分の目標をさだめ、それに向かって努力を積み重ね、大きな達成感を味わってほしいものです。

それぞれのご家庭で、素晴らしい年を迎えられることを心より祈念申し上げます。

